

平成29年度 第1回 二宮町下水道運営審議会次第

日 時 平成29年11月28日（火）
午後2時00分～

場 所 二宮町役場庁舎2階 第1会議室

1 開 会

2 委 嘱

3 町長あいさつ

4 委員紹介

5 会長あいさつ

6 議 題

(1) 平成28年度二宮町下水道事業の決算状況について

資料1

(2) 二宮町下水道事業中期経営計画（平成25年度～平成28年度）
の最終報告について

資料2

(3) その他

7 閉 会

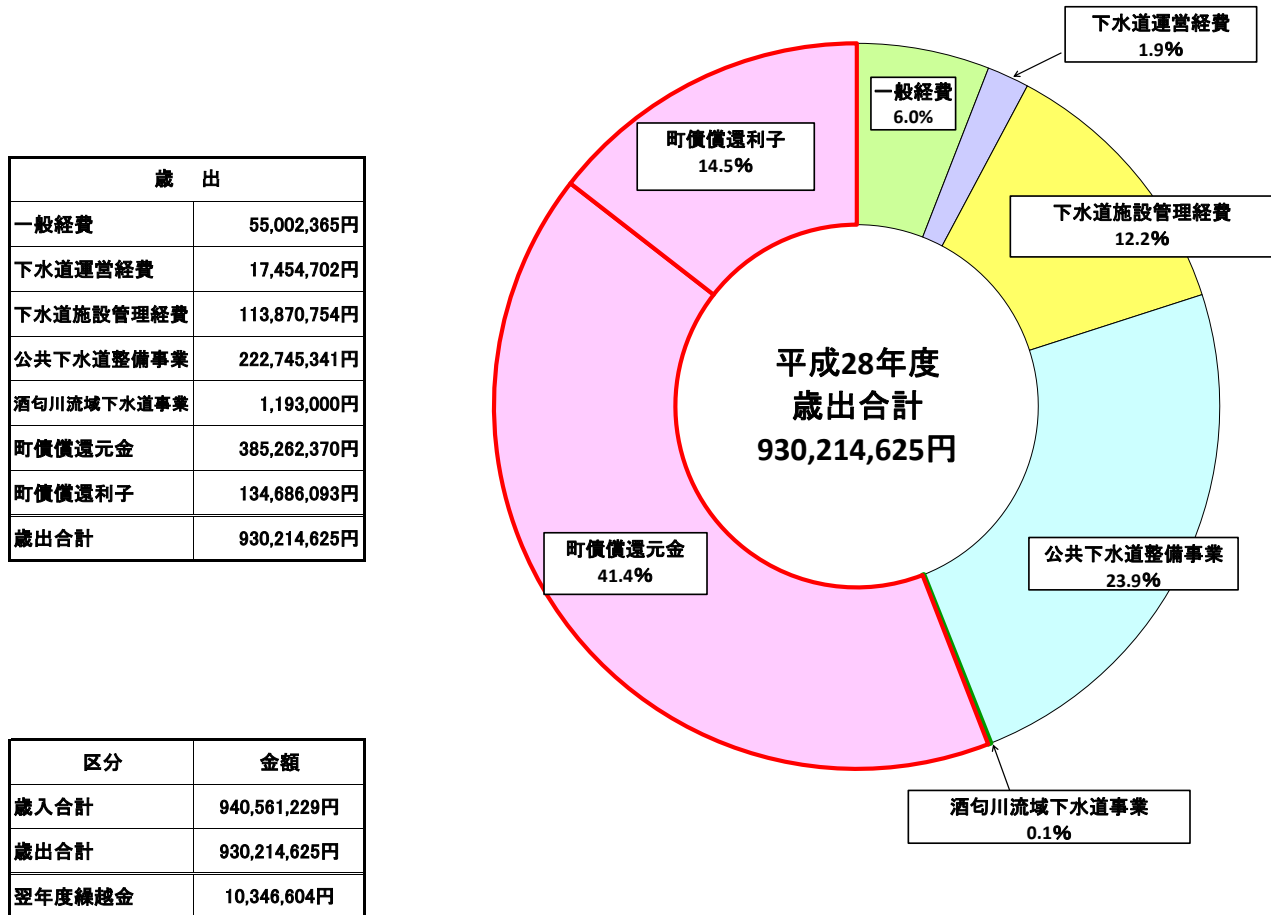
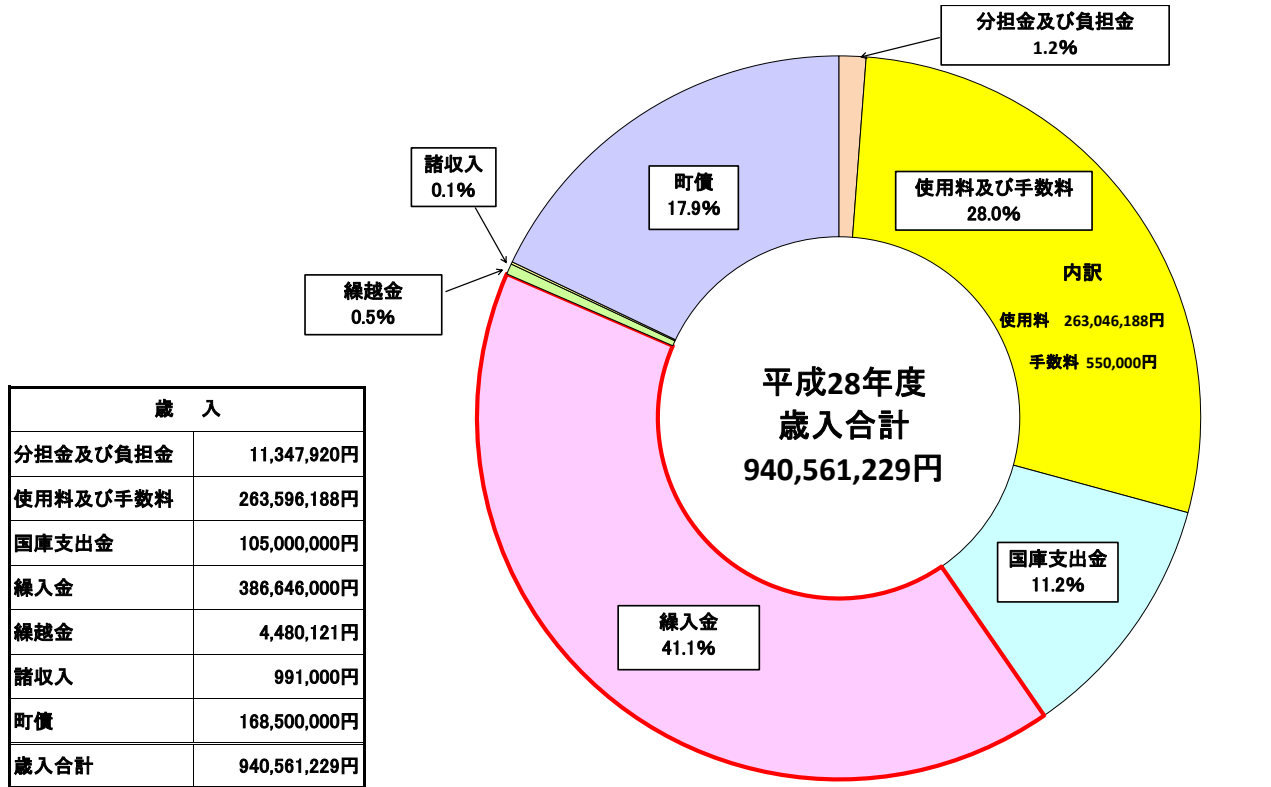
二宮町下水道運営審議会委員名簿

平成29年11月現在

No	氏名	地区	備考
1	野地 洋正	—	議会議員
2	宮林 正彦	—	学識経験者(県企業庁平塚水道営業所長)
3	海野 淳	—	学識経験者(県下水道公社業務部長)
4	大田 博樹	—	学識経験者(神奈川大学経営学部准教授)
5	松尾 武保	富士見が丘	排水設備設置義務者及び使用者
6	添田 米美	元町北	排水設備設置義務者及び使用者
7	村田 耕一郎	越地	排水設備設置義務者及び使用者
8	土谷 美智代	元町南	排水設備設置義務者及び使用者
9	山下 真理子	中里	排水設備設置義務者及び使用者
10	永井 和美	富士見が丘	排水設備設置義務者及び使用者
11	原 美耶	山西	排水設備設置義務者及び使用者

※順不同

平成28年度下水道事業特別会計の決算状況



区分	金額
歳入合計	940,561,229円
歳出合計	930,214,625円
翌年度繰越金	10,346,604円

○歳入では、一般会計からの繰入金が41.1%と半分近くを占めています。
 ○歳出では、公債費(町債償還元金および利子)が55.9%と半分以上を占めており、その財源は使用料と上記の繰入金となっています。

平成 28 年度決算状況について

平成 28 年度下水道事業特別会計の決算額は、歳入合計が 9 億 4,056 万 1 千円、歳出合計が 9 億 3,021 万 5 千円となり、差引 1,034 万 6 千円が次年度への繰越金となります。

【歳入】

分担金及び負担金

下水道整備の対象となった土地の所有者等に対し、整備費用の一部として負担していただく受益者分担金と受益者負担金の合計です。

上記の通り、主に整備費用の財源とするため、下水道運営経費と公共下水道整備事業に充当されています。

使用料及び手数料

使用料及び手数料のうち、使用料とは公共下水道の利用者から支払われた下水道使用料による収入です。

平成 28 年度の使用料については、2 億 6,304 万 6 千円の収入で、徴収率は 97.8% でした。

手数料は、二宮町で下水道の接続工事を行うために必要な資格である、排水設備指定工事店及び在籍する責任技術者の登録及び更新に際して徴収しているものです。

これらの収入は、事業の運営や施設の維持管理等の財源として、一般経費、下水道運営経費、下水道施設管理経費、町債償還元金に充当されています。

国庫支出金

下水道整備の財源として国から交付される補助金です。公共下水道整備事業に全額が充当されています。

繰入金

下水道事業の財源として一般会計の税収入等から融通された資金です。

繰越金

前年度（平成 27 年度）の歳入合計と歳出合計の差引により発生したものです。

諸収入

過去に支払った酒匂川流域下水道建設事業費負担金について精算が行われた結果、町に返戻金が発生したことによる収入です。

町債

事業の実施、運営に際して、必要な財源を確保するために外部から借り入れた資金です。

平成 28 年度は、公共下水道整備事業、酒匂川流域下水道事業、及び町債償還元金の財源に充当するために借り入れを行っています。

【歳出】

一般経費

職員の給与や諸手当など、主に人件費に係る支出です。

下水道運営経費

受益者分担金及び受益者負担金の賦課徴収に係る経費、上下水道料金一括納付制度に係る委託料、消費税など、事業の運営に係る事務的経費です。

下水道施設管理経費

マンホールポンプなど設備の点検費、下水道管の修繕費など、下水道施設に係る管理経費、及び酒匂川流域下水道事業の運営に伴って町が負担する維持管理負担金が含まれます。

公共下水道整備事業

汚水枝線工事、及びそれに伴う実施設計、調査など、下水道施設の整備事業に係る支出です。

酒匂川流域下水道事業

酒匂川流域下水道事業で実施した整備に伴い、町が負担する建設事業費負担金による支出です。

町債償還元金

過去に借り入れた町債の返済に係る支出のうち、元金の返済に相当する分です。

町債償還利子

過去に借り入れた町債の返済に係る支出のうち、利息の支払いに相当する分です。

決算関係用語解説

【受益者分担金／受益者負担金】

公共下水道が整備される地域の土地所有者の方に、整備費用の一部として負担していただく金銭のこと。

公共下水道の整備が行われた地域の土地は、整備前と比べて資産価値が上がると考えられている。また、公共下水道は生活排水をより衛生的に処理できることから、未整備の地域と比べて快適な生活環境が整備される。

上記のようなメリットが土地の所有者に発生するため、整備に要する費用について、その一部を土地の所有者に負担していただくという受益者負担の考えに基づいている。

【下水道使用料】

公共下水道に接続している家庭、事業所等の利用者から、公共下水道管理者（二宮町）が賦課、徴収する使用料のこと。

事業の運営、施設の維持管理等の経費を賄う財源とするため、利用者から下水道による汚水処理の対価として徴収されている。

金額は公共下水道へ排出された汚水の量に応じて、条例に基づき算定される。

【町債】

事業に必要な財源を確保するため、外部から借入れを行って調達した資金のこと。また、この借入れを行うことを「起債」と言う。

資金の償還（返済）は借入れの際に定められた年数にわたり、分割して行う。

借入れに際しては、資金の使用目的、金額、借入れ先等について都道府県知事と協議し、同意を受ける必要がある。

【上下水道料金一括納付制度】

主に利用者の利便性の向上を目的として、水道料金と下水道使用料をまとめて徴収する制度のこと。

二宮町では平成 15 年度より施行されており、徴収に係る業務を神奈川県に委託している。

県は利用者から上記の料金をまとめて徴収した後、下水道使用料に相当する分を町に納付している。また、町は徴収した件数に応じた委託料を県に支払っている。

【酒匂川流域下水道事業】

二宮町を含む県西の 10 市町（小田原市、秦野市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、二宮町）から排出された汚水を、小田原市に設置された処理場でまとめて浄化、放流する事業のこと。

処理場等の整備と維持管理は神奈川県が実施し、上記の 10 市町がこれらに係る費用を負担している。

二宮町下水道事業中期経営計画

(平成 25 年度～平成 28 年度)

最終報告

(案)

平成 2 9 年 1 1 月

二宮町都市部下水道課

目 次

1	下水道事業の現状	1
2	事業運営の基本方針	2
	（1）計画の位置づけ	
	（2）計画の期間	
	（3）事業運営の目標と達成状況	
3	事業計画と達成状況	3
	（1）財政収支計画	
	（2）中期指標	
	（3）主要整備計画	
	（4）投資計画	
4	経営基盤強化への取組による効果	7
	用語解説	8

平成25年3月に策定した二宮町下水道事業中期経営計画（計画期間：平成25年度～平成28年度）の達成状況について、次のとおり報告します。

1 下水道事業の現状

本町の下水道は、酒匂川流域関連公共下水道として、平成2年に都市計画法及び下水道法の事業認可を取得し、平成3年から工事開始、平成11年4月には酒匂川流域下水道川匂ポンプ場の完成と同時に川匂・山西地区の一部が供用開始となりました。

污水幹線整備は平成27年度施工の山西污水幹線をもって完了し、現在は污水枝線工事により下水道処理区域の拡大と水洗化の促進を図っています。

平成28年度末の整備済区域面積は386.6haとなり、人口普及率は86.5%、水洗化率は75.0%となっています。

なお、二宮町内の污水はすべて公共下水道で処理する計画で整備を進めてまいりましたが、排水処理施設の整備効率化と建設及び維持にかかる費用の省力化を考慮した、下水道アクションプランを平成27年度に策定し、525haだった計画区域を448.5haに縮小し、平成37年度整備完了に向け污水管の整備を進めます。

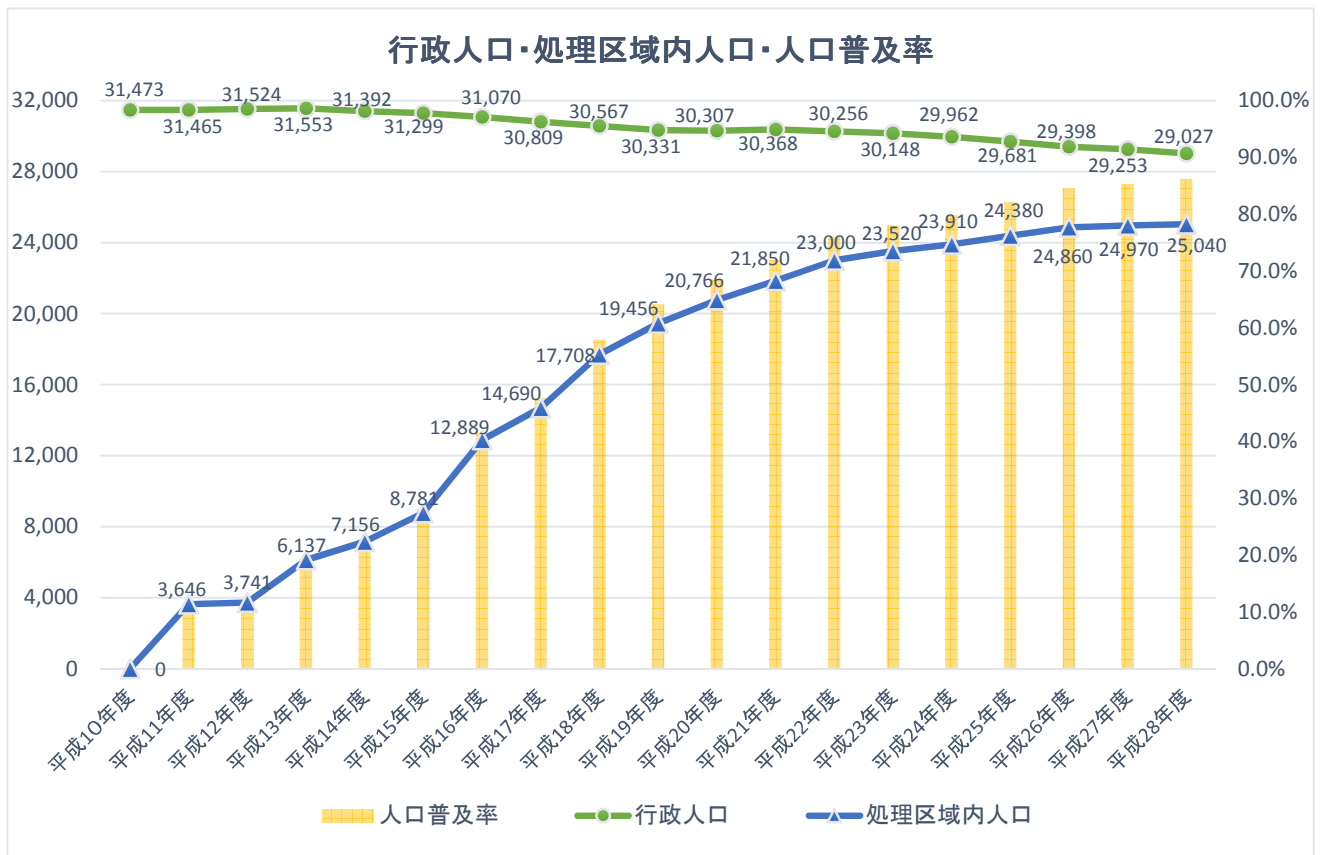


図1 行政人口、処理区域内人口及び人口普及率の推移

2 事業運営の基本方針

(1) 計画の位置づけ

本計画は、これまでに策定された行政改革大綱や集中改革プラン、公的資金補償金免除繰上償還に係る経営健全化計画等を踏まえて、下水道経営の健全化・効率化を図ると共に、経営基盤を強化するための計画として平成22年度に策定した「二宮町下水道中期ビジョン」の実現を目指して、下水道事業の中期的な経営方針及び事業計画を示したものです。

(2) 計画の期間

計画期間は、平成25年度から平成28年度までの4年間です。

(3) 事業運営の達成状況

項目	平成23年度 (実績)	平成26年度 (中間実績)	平成28年度 (目標)	平成28年度 (最終報告)
処理区域内人口	23,520人	24,860人	25,350人以上	25,100人
人口普及率	78.5%	84.6%	85%以上	86.5%
水洗化率	71.2%	73.4%	75%以上	75.0%
経費回収率	48.9%	70.8%	55%以上	77.6%
町債残高	69億円	65億円	63億円以下	61億円

◆処理区域内人口

行政人口が減少したことなどから、目標値には届きませんでした。

◆人口普及率

近年、国庫からの交付金が縮減傾向であったため、事業費を減額して整備面積を縮小せざるを得ない状況でしたが、効率的な整備を進めたことで目標値を上回りました。

◆水洗化率

接続勧奨や普及啓発などによる成果により目標値に達しました。

◆経費回収率

起債額が縮減して使用料収入で賄うべき汚水処理費が少なくなったことや、接続数の増や料金改定による下水道使用料の収入増加により、目標値を上回りました。

◆町債残高

事業費の減額により町債の借入額が減少したことで、目標値より少なくなりました。

計画に掲げた目標は概ね達成することができましたが、使用料収入で賄うべきとされる汚水処理費（使用料対象経費）のうち資本費の一部は一般会計からの繰入金に依存している状況は解消されていません。引き続き、経営基盤強化への取り組みに努めます。

3 事業計画と達成状況

(1) 財政収支計画

① 収支計画

(単位：千円)

項目			25年度	26年度	27年度	28年度
収 入	受益者負担金 (分担金を含む)	計画	9,069	16,162	16,989	33,831
		実績	13,245	15,674	13,290	11,348
	下水道使用料 (手数料を含む)	計画	226,319	236,691	243,374	250,745
		実績	232,240	235,212	238,248	263,596
	国庫補助金	計画	120,000	105,000	114,000	115,000
		実績	95,800	114,000	98,000	105,000
	一般会計繰入金	計画	370,927	399,682	409,154	388,635
		実績	365,628	379,821	411,428	386,646
	町債	計画	254,700	203,200	201,800	207,500
		実績	176,500	219,200	184,100	168,500
	その他	計画	15,336	5,438	5,438	5,438
		実績	25,401	17,646	15,144	5,471
	合 計	計画	996,351	966,173	990,755	1,001,149
		実績	908,814	981,553	960,210	940,561
支 出	維持管理費	計画	191,389	191,796	191,796	193,579
		実績	182,132	181,987	199,043	186,328
	整備事業費	計画	326,987	271,356	279,356	271,359
		実績	235,431	289,740	245,624	223,938
	公債費	計画	477,975	503,021	519,603	536,211
		実績	476,417	494,682	507,263	519,949
	合 計	計画	996,351	966,173	990,755	1,001,149
		実績	893,980	966,409	951,930	930,215

歳入は、国庫からの交付金が縮減傾向となった影響から、年度毎の整備費を減額し、面整備の範囲が縮小したことで、受益者負担金および町債が計画より減となりました。

下水道使用料は、新規接続増と平成28年7月に使用料を改定したことから増となりました。

歳出は、枝線工事などの整備事業費が縮減し、起債額が減少したことから、償還利子などの増加分が計画ほど増えず、公債費は計画値を下回って推移しました。

事業費全体を調整した結果として、歳入歳出ともに計画を策定した際に見込んだ総事業費を下回って推移しました。

② 起債残高

(単位：千円)

項目		25年度	26年度	27年度	28年度
町債元金 残高	計画	6,765,588	6,624,116	6,460,594	6,281,293
	実績	6,642,687	6,517,670	6,337,973	6,121,211

起債残高は、各年度の事業費が縮減したことなどに伴い、起債額（町債借入額）が計画より減少しました。

そのため、毎年の借入額と返済額の差が計画よりも大きくなったため、町債残高は計画値より少ない値で推移しました。

(2) 中期指標

水洗化率は、最終年度である平成28年度末で中期目標に達しました。

一方で、年間有収水量は平成26年度に減少となった後、接続数の増などにより再び増加に転じてはいますが、節水型機器の普及や節水意識の定着などから、大きな伸びは示していません。

項目		25年度	26年度	27年度	28年度
人口普及率 (%)	計画	81.3	82.0	83.4	85.3
	実績	82.1	84.6	85.6	86.5
水洗化率 (%)	計画	73.6	74.0	74.4	74.6
	実績	73.1	73.4	74.6	75.0
使用料単価 (円/㎡)	計画	130	130	130	130
	実績	131	134	134	144
汚水処理原価 (円/㎡)	計画	242	238	237	235
	実績	190	189	186	187
経費回収率 (%)	計画	53.7	54.6	54.9	55.3
	実績	68.9	70.8	71.8	77.6
年間有収水量 (千㎡)	計画	1,741	1,821	1,872	1,929
	実績	1,772	1,752	1,777	1,790

今後も、人口減少や節水志向により排水量の大きな増加は見込めず、減少傾向となることも考えられるため、イベント会場でのPR活動や、「供用開始のお知らせ」のポスティング、供用区域の未接続世帯に対する戸別訪問など普及啓発により、水洗化率向上や使用料増加を図るなど健全な運営に努めます。

(3) 主要整備計画

No	事業名		事業期間	事業概要
1	山西汚水幹線整備	計画	25年度、27年度	事業計画区域の拡大により、越地・釜野・百合が丘1丁目地区への接続に向けて汚水の幹線管渠の整備を行います。
		実績	25年度～27年度	平成25年度から27年度に越地・釜野・百合が丘1丁目地区整備に向けた汚水の幹線管渠の工事を行いました。
2	汚水枝線整備	計画	25年度～28年度	収入基盤強化のため枝線管渠の整備を行います。
		実績	同上	平成25年度は越地・釜野・百合が丘1丁目・北新道地区、26年度は越地・釜野・百合が丘2丁目地区、27年度と28年度は越地・釜野地区を整備しました。
3	雨水浸水対策	計画	25年度、26年度	北新道地区の浸水対策として、雨水管渠の整備を行います。
		実績	25年度～27年度	北新道地区の浸水対策は平成26年度に完成しました。平成27年度には、釜野地区での雨水対策工事を実施しました。

(4) 投資計画

(単位：千円)

No	事業名		25年度	26年度	27年度	28年度
1	山西汚水幹線整備	計画	180,000	—	50,000	—
		実績	52,447	102,060	57,596	—
2	汚水枝線整備	計画	42,000	205,000	213,000	270,000
		実績	94,531	124,545	132,840	211,032
3	雨水浸水対策	計画	95,000	50,000	—	—
		実績	81,375	47,368	12,939	—
合 計		計画	317,000	255,000	263,000	270,000
		実績	228,353	273,973	203,375	211,032

4 経営基盤強化への取組による効果

(1) 効果の確保

収入の水洗化率の向上は、下水道接続件数の増加による使用料収入の増加額を実績としました。なお、下水道使用料の改定に伴う増額の効果は含まれていません。

(単位：千円)

項目			25年度	26年度	27年度	28年度
収入	水洗化率の向上	計画	2,900	1,300	2,600	2,900
		実績	3,120	2,212	2,997	2,000

(2) 経費の節減

支出の工事コストの削減については、小型マンホールや曲り管の使用による材料費の削減や、管渠の浅層埋設や競合工事による舗装復旧費により工事費の節減に努めました。

しかし、計画事業費全体に大幅な変更が生じ、縮減効果の達成率算出が困難となりました。そのため、参考として、汚水枝線工事費の計画額（再掲）と決算額を掲載しました。

(単位：千円)

項目			25年度	26年度	27年度	28年度
支出	工事コストの削減	計画	2,100	10,250	10,650	13,500
		実績	-	-	-	-
[参考] 枝線工事費（投資計画）		計画	42,000	205,000	213,000	270,000
		実績 (枝線工事費)	94,531	124,545	132,840	211,032

(3) 定員管理及び給与の適正化

人員構成や給与については、一般会計に準じての運用となっています。

(4) 人材育成

県主催の下水道に関する勉強会、下水道使用料に関する研修会、公営企業会計適用に関する講演会、下水道経営講習会など専門的な研修への参加や、市町村研修センター主催の研修に参加をすることで、職員の能力向上を図りました。

用語解説

用語	解説
起債	公共下水道を整備するために必要な財源の不足分を、年度を越えて長期（1年以上）に借り入れるお金のこと。
人口普及率	下水道事業の進捗を表す指標。 下水道を利用できる区域内の人口÷行政人口
水洗化率	下水道を利用できる区域内の人口に対して、下水道に接続している人口の割合を表す。
有収水量	下水道使用料の対象となる水量
使用料単価	1 m ³ の汚水に対し、いくら使用料を徴収しているかを表す。 使用料収入÷年間有収水量
汚水処理原価	1 m ³ の汚水をいくらの経費で処理しているかを表す。 汚水処理費÷年間有収水量
経費回収率	汚水処理にかかる施設の維持管理費や資本費が、どれだけ使用料で賄われているかを表す。 使用料単価÷汚水処理原価